

<じっくりあそぶ>



「うちの子、車でしか遊ばないんです」と、困ったように話すお母さんがいます。その子にとっては、車という、手で動かすとビューンと走るおもちゃに魅力を感じたのですね。夢中になれる遊びが一つでもみつけれは、大事なことです。

力の入れ具合によって走る距離が変わってくるので、いかにして遠くまで走らせるかを工夫します。坂道を走らせると遠くまで行くことがわかったり、お母さんと対面してやり取りを楽しんだり、どっちが遠くまで走るか競争したりと、いろんな楽しみ方があります。

車の種類や名前を知ったり、色を覚えたり、学ぶこともいろいろありますね。大きな紙に道路を描いて、道路をはみ出さないように上手に走らせたり、ブロックで作ったトンネルをくぐらせたり、と単なる車の遊びから、お絵かきやブロック遊びなど、新たな遊びへと発展させることができます。車に乗っている運転手さんに食べ物を食べさせたり、ガソリンを入れたり、ごっこ遊びを楽しむこともできるでしょう。

このように、何か一つの遊びに夢中になれると、その遊びを通して、別の遊びへの広がりがあり、友だちとのつながりもできてきます。また、好きな遊びがみつかり、「明日も、この続きをしよう!」とか、「もっと楽しい遊び方はないかな?」と、次への意欲にもつながります。子どもにとって、遊びは生活の中心ですから、生きる意欲につながるといってもいいでしょう。

おもちゃの種類はたくさんなくても、年齢に見合ったおもちゃを数種類用意してあげると、子どもはその中から好きな遊びをみつけていきます。この子はどんな遊びが好きなのか、様子を見守っていきましょう。

また、一つの遊びで集中して遊べるように、遊びの時間を保障してあげることが大切です。例えば、身体を動かすことが好きな子だったら、公園で遊べる時間を保障してあげましょう。いろんな遊具があったり、あちこち探索したりと、子どもが満足するには一定の時間が必要です。ですから、今日は公園に行こうと決めたら、たっぷり時間をとって遊ばせましょう。

室内遊びも同様です。子どもが集中して遊んでいる時には、見守りましょう。ただし、遊びがより発展するように、少しヒントを与えてあげたり、子どもが相手を求めてきた時には、一緒に遊んで楽しむことも大事です。

集中して遊ぶ力は、やがて、集中して話を聞く力や、集中してスポーツや学習に取り組む力につながっていきます。子どもがじっくりと、好きな遊びを楽しめるよう、環境を整えてあげましょう。

(文 ここすき!プロジェクト保育士)